

告示	番号	59	悪性新生物
	疾病名	髄膜腫	

## 髄膜腫

ずいまくしゅ

### 概要・定義

髄膜被細胞（くも膜細胞）から発生する境界明瞭な腫瘍で、硬膜の内面に固着し髄外性に発育する。渦巻き構造や石灰化を特徴とするが、多様な組織亜型がある。病理組織学的には良性である（WHO グレード I）が、異形性を示す例（WHO グレード II、III）では再発しやすい。

### 症状

大脳円蓋部、旁矢状部、嗅球部、蝶形骨縁、トルコ鞍周囲など頭蓋内のどの部位に発生してもよいが、成人にはまれな発生部位である後頭蓋窩、脳室内などに発生する傾向にある。

### 治療

腫瘍の摘出が治療の第一選択であるが、腫瘍が小さく無症候性で偶然発見された場合は画像で観察し、増大傾向があれば摘出を考慮する。腫

瘍の全摘出を行えば再発しにくいですが、増大速度が速く、巨大な腫瘍が多いので摘出は困難な場合が多く、全摘出は75%の例で可能とされている。組織学的に良性の所見を呈しても残存腫瘍からは再発しやすい。放射線治療は有効であるが、慢性期の放射線障害の発生を考慮すると全摘出が困難な例や組織学的に悪性所見を呈する例に対して施行すべきである。有効な化学療法はない。

抜粋元：[http://www.shouman.jp/details/1\\_6\\_80.html](http://www.shouman.jp/details/1_6_80.html)